

タリサの21

全10口 | 1口**320万円** (総額3,200万円)

販売者 **ノーザンファーム** 生産 ノーザンファーム 繋養 ノーザンファームYearling



250

サトノダイヤモンド × タリサ「牡」

サトノダイヤモンド 鹿 2013	ディープインパクト 鹿 2002	*サンデーサイレンス	Halo
			Wishing Well
		*ウインドインハーヘア	Alzao
			Burghclere
	*マルペンサ Malpensa 鹿 2006	Orpen	Lure
			Bonita Francita
	Marsella	*サザンハイロー	
			Riviere
	ブルモワ Pour Moi 鹿 2008	Montjeu	Sadler's Wells
			Floripedes

牡
鹿毛

2021.3.21 生

*タリサ
Talisa
鹿 2013

ブルモワ
Pour Moi
鹿 2008

オネルーズ
Onereuse
鹿 1994

Montjeu

Sanglamo

*ジェドゥーザムール

Gwynn

Sharpen Up

Pollenka (16)

Ballinderry

Top Ville

Pollenka (16)

FAMILY | 母系

母の父 ブール モワ Pour Moi は愛国産, 仏英3勝, 英ダービー-G1, グレフェール賞-G2, ラフォルス賞-G3 3着。主な産駒: ウィングズ オブ イーグルズ (英ダービー-G1), セイクリッド エリクシール (BRC J.J.アトキンス S-G1, MVR Cムーニー ヴァリー ヴァーズ-G2), オンリー マイン (ラッケン S-G3), ウェントウッド (Bendigo JC ベンディゴ C-G3)

母 *タリサ Talisa (13 Pour Moi) 愛国産, 英1戦。産駒
ダグザ (19 騙 鹿 Shalaa) 入着, ⑨
ナリサ (20 牝 鹿 *キンシャサノキセキ) 未出走

祖母 オネルーズ Onereuse (94 Sanglamo) 仏入着。産駒

フィデリテ Fidelite (牝 In The Wings) 仏2勝, サンタラリ賞-G1, ヴェルメイユ賞-G1 3着, ヴァントー賞-G3 4着。産駒

エクストレミス Extremis (牡 Invincible Spirit) 仏2勝, La Coupe de Marseille-L, Prix de Saint-Patrick-L 2着

アムール マルティプル Amour Multiple (騙 Poliglote) 仏3勝, 仏障1勝, 英障2勝

ドンセラ Doncella (牝 High Chaparral) 豪2勝

フランシスコ ゴヤ Francisco Goya (牡 Galileo) 愛1勝

曾祖母 *ジェドゥーザムール J'Ai Deux Amours (86 Top Ville) 仏国産, 仏1勝, Prix de Lieurey-L, Prix de Meudon-L 2着, オペラ賞-G2 3着, Prix Coronation-L 3着, パース賞-G3 4着。産駒

ウィングド ラヴ Winged Love: 仏愛3勝, 愛ダービー-G1, Prix de Surresnes-L, 仏ダービー-G1 3着, ニエル賞-G2 3着。種牡馬

***ダイワカーリアン**: 10勝, 札幌記念-JPN2, 東京新聞杯-JPN3, 富士 S-JPN3, UHB杯-OP, ノベンバー S, 千葉 S, 藻岩山特別

アドマイヤビッグ: 2勝, 東京スポーツ杯2歳 S-JPN3

ハート ハズ ウィングズ Heart Has Wings: 仏1勝, La Coupe de Mars-eille-L 2着

シエリール: 4勝, 西海賞, あすなろ賞, 忘れな草賞-OP 3着。産駒

ムスカテル: 7勝, 目黒記念-G2, メトロポリタン S-L, オクトーバー S, 日経新春杯-G2 2着, アルゼンチン共和国杯-G2 2着, 日経賞-G2 3着, 南関東②入着, 川崎記念-JPN1 2着

グロンディオーズ: 5勝, ダイヤモンド S-G3, 六社 S, 信濃川特別

POINT | ポイント

全体的に窮屈感なく伸びやかに馬体が造られており、各関節にも角度があつて優れたパネを生み出せる馬体構造の持ち主です。横見には強く主張してこないものの、後方からは丸みある筋肉を保持しているのが確認でき、骨格と筋肉の両面を駆使して弾むような動きを放牧地で披露しています。性格的にはやや敏感で急にテンションが上がる箇所はありますが、それが動きの機敏さにつながっており、馬体が生み出す瞬発力はより鋭く研ぎ澄まされることでしょう。父同様に緩急のある芝の中距離以上の適性が高そうですが、重厚な母系は栄冠を手繰り寄せる最大のキーマンとなって威力を発揮するかもしれません。